6.13 景観

6.13.1 調査

景観の調査項目及び調査状況は、表 6.13.1.1 に示すとおりである。

表 6.13.1.1 景観の調査項目及び調査状況

調査項目		文献等資料調査	埋立事業実施区域及びその周辺における調査	
			既存の現地調査	現地調査
(ア)眺望景観の状況				
	ア)主要な眺望点の状況	○	○	○
	イ)景観資源の状況	○	○	○
	ウ)主要な眺望景観の状況	－	○	○
	エ)眺望景観の価値の把握	－	○	○
(イ)囲繞景観の状況				
	ア)景観区の区分	－	○	○
	イ)囲繞景観の状況	－	○	○
	ウ)囲繞景観の価値の把握	－	○	○

(1) 文献等資料調査

「第 3 章　3.2.2　(5) 景観,(ア)文献その他の資料調査」に示すとおりである。

(2) 既存の現地調査

「第 3 章　3.2.2　(5) 景観,（イ）既存の現地調査」に示すとおりである。

(3) 現地調査

1) 調査項目

調査項目は、表 6.13.1.2 に示すとおりである。

表 6.13.1.2　現地調査の調査項目

(ア)眺望景観の状況	ア)主要な眺望点の状況
	イ)景観資源の状況
	ウ)主要な眺望景観の状況
	エ)眺望景観の価値の把握
(イ)囲繞景観の状況	ア)景観区の区分
	イ)囲繞景観の状況
	ウ)囲繞景観の価値の把握

2) 調査概要

景観の調査概要は、表 6.13.1.3 に示すとおりである。

また、景観調査の調査範囲及び主要な調査地点は、図 6.13.1.1～図 6.13.1.3 に、示すとおりである。

表 6.13.1.3　景観の調査概要

調査項目		調査方法	調査実施日
（ア） 眺望景観	ア）主要な眺望点の状況	埋立事業実施区域が視認可能な範囲を抽出するため、地図ソフトによる可視領域の抽出を行い、文献その他資料調査の結果と重ね合せを行い、主要な眺望点の地点を抽出した。 抽出された地点を現地踏査し、眺望性の観点及び利用状況から地点を抽出した。	【現地踏査】 令和 6 年 9 月 17～30 日 令和 7 年 9 月 22 日、24 日
	イ）景観資源の状況	文献その他資料調査より抽出した景観資源について現地踏査を行い、景観資源の状況を把握した。	【現地踏査】 令和 6 年 8 月 20 日、9 月 17～30 日 令和 7 年 9 月 22 日、24 日
	ウ）主要な眺望景観の状況	ア）、イ）より抽出された眺望点及び景観資源について現地調査を行い、日中及び夕方の時間帯に写真撮影を行い、主要な眺望景観の状況を把握した。	【現地調査】 令和 6 年 9 月 17～30 日 令和 7 年 9 月 22 日、24 日
	エ）眺望景観の価値の把握	眺望景観の普遍価値と固有価値から認識項目を設定し、指標や価値に関する直接的な認識を把握した。	【ヒアリング調査】 令和 7 年 7 月 4 日～8 月 27 日
（イ） 囲繞景観	ア）景観区の区分	埋立事業実施区域及びその周辺の基盤環境等に基づき、景観区を区分した。	【現地調査】 令和 6 年 9 月 17 日、20 日
	イ）囲繞景観の状況	景観区について、場の状態、利用の状態、眺めの状態を把握するため、写真撮影により把握した。	
	ウ）囲繞景観の価値の把握	囲繞景観の普遍価値と固有価値から認識項目を設定し、指標や価値に関する直接的な認識を把握した。また、利用者への価値については、ヒアリング調査を実施した。	【ヒアリング調査】 令和 7 年 7 月 4 日～8 月 27 日

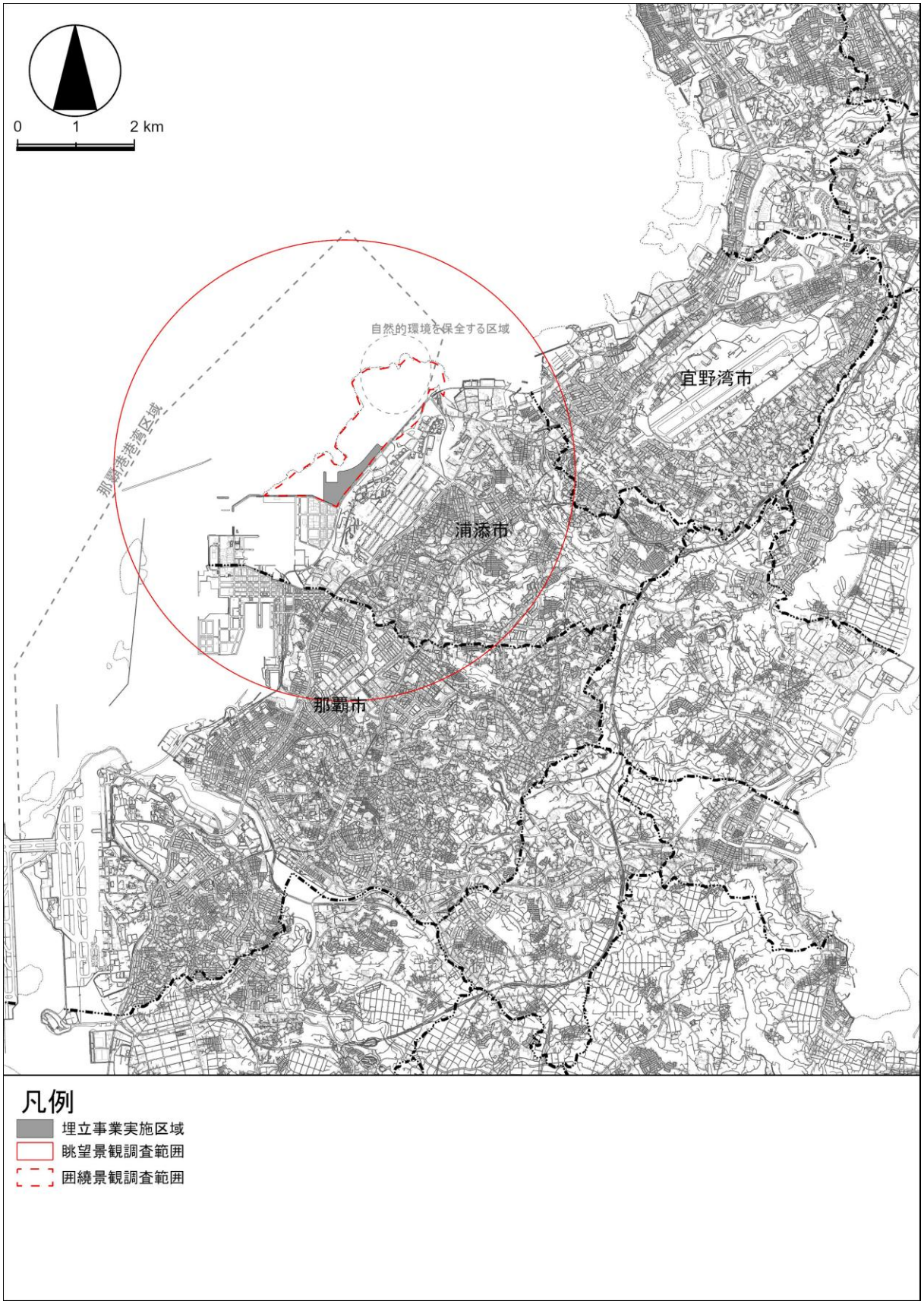


図 6.13.1.1　眺望景観及び囲繞景観の調査範囲

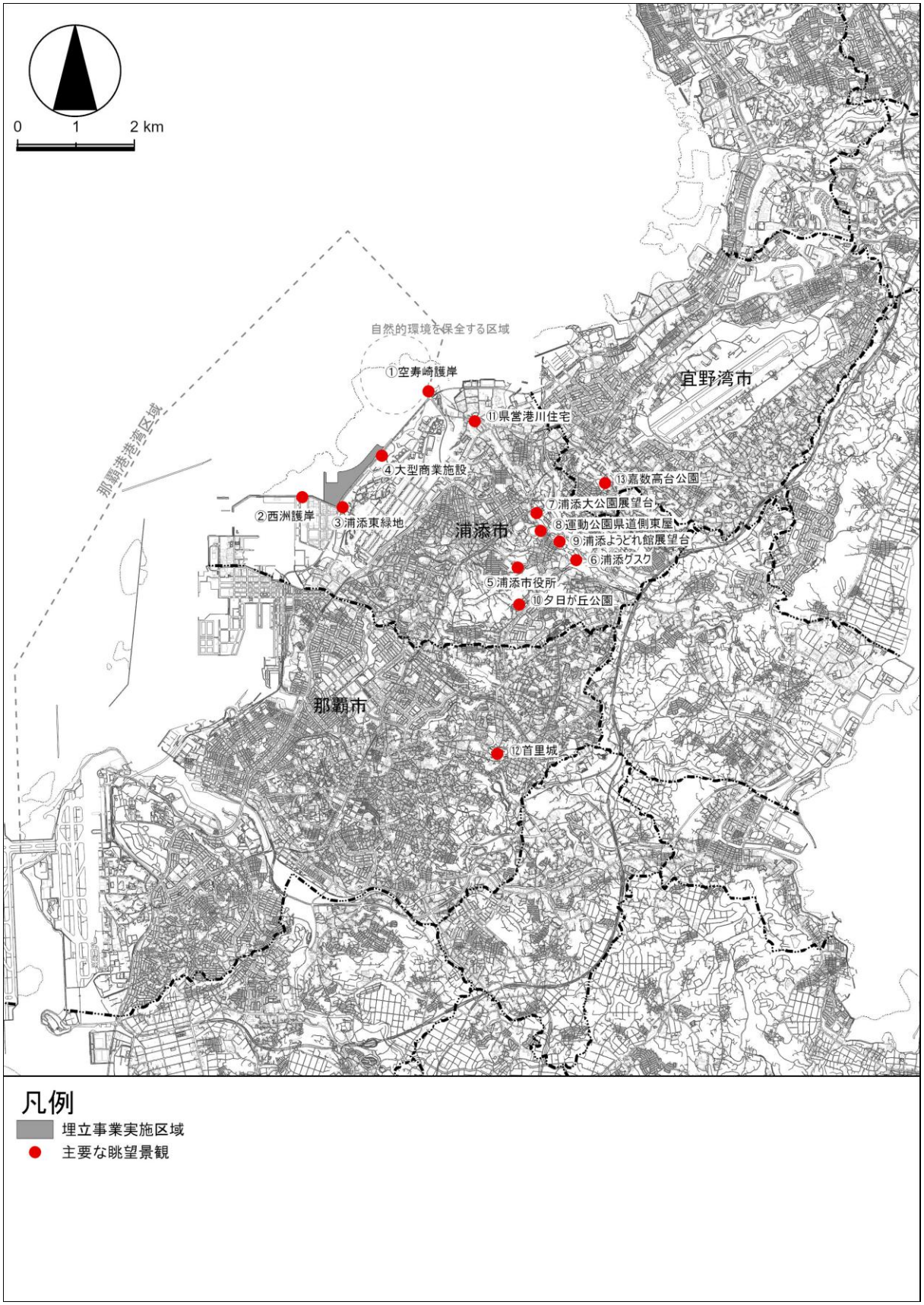


図 6.13.1.2　眺望景観の調査地点

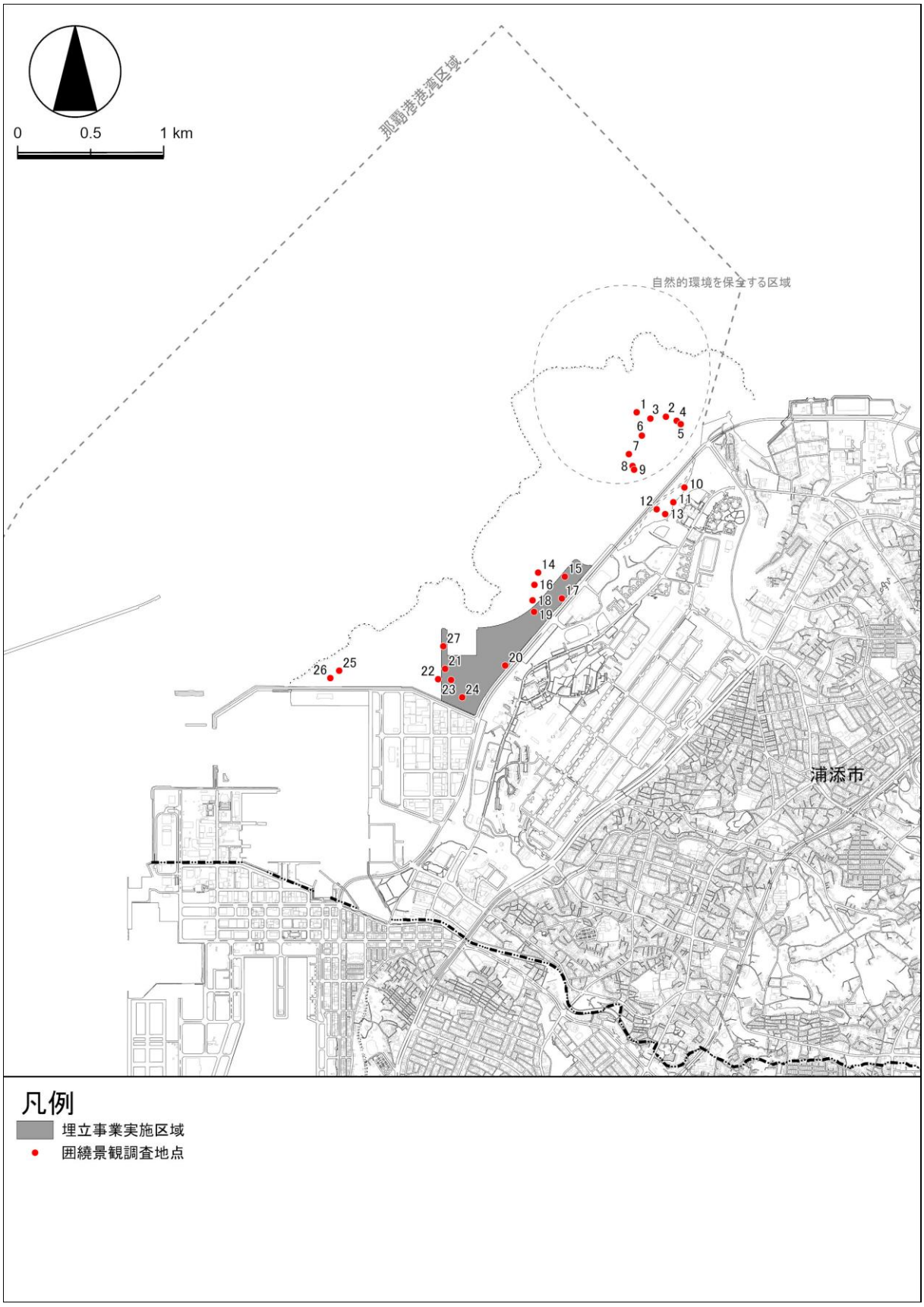


図 6.13.1.3　囲繞景観の調査地点

3）調査結果

（ア）眺望景観の状況

ア）主要な眺望点の状況

(a) 可視領域判定による主要な眺望点候補地の抽出

主要な眺望点を抽出するため、埋立事業実施区域の北端と南端を眺望することができる可能性がある場所を、地図ソフトを用いて地形情報等から計算を行い可視領域の判定を行った。計算結果は、図 6.13.1.4 に示すとおりである。

この結果と文献等調査結果及び既存の現地調査より、可視領域内の主な眺望景観の視点場の候補地点を表 6.13.1.4 に抽出し、現地において可視領域の可能性が高い眺望点の眺望状況を確認した。確認結果は「ウ）主要な眺望景観の状況」に示した。

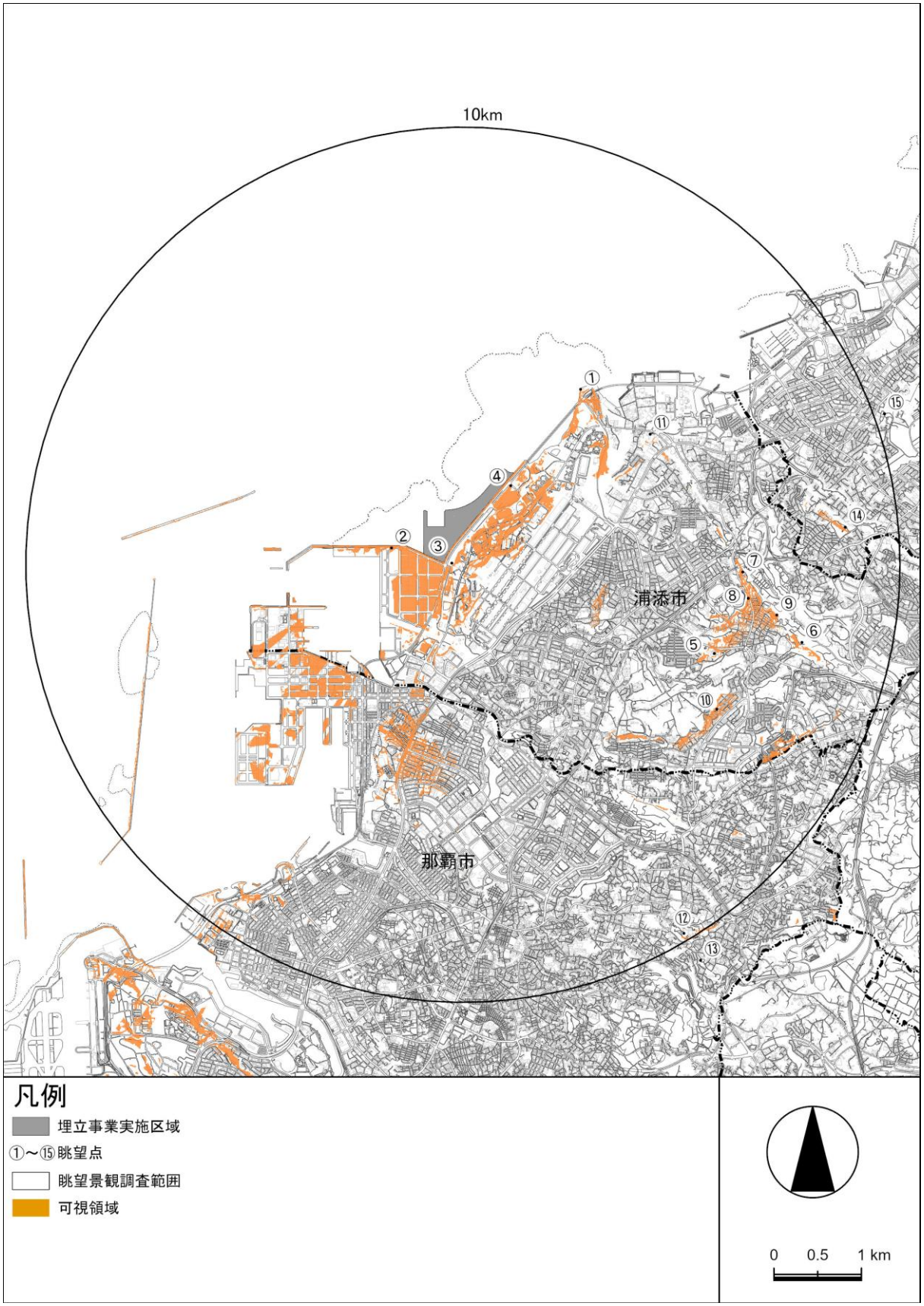


図 6.13.1.4　可視領域判定の結果

表 6.13.1.4　可視領域判定により抽出した主要な眺望点

地点番号	地点名	市	眺望状況	利用状況
①	空寿崎護岸	浦添市	眺望が開けており、埋立事業実施区域北側からの状況を確認できる。	駐車場等の施設があり、家族連れによる潮干狩りや自然観察会等に多く利用されている。
②	西洲護岸	浦添市	眺望が開けており、埋立事業実施区域南側からの状況を確認できる。	護岸沿いにかけられている木梯子で、護岸の上に登れるようになっている。
③	浦添東緑地	浦添市	既存の護岸が障害になるが、埋立事業実施区域東側からの状況を確認できる。	駐車場等の施設があり、護岸及び緑地において休憩による利用がみられる。
④	大型商業施設	浦添市	眺望が開けており、埋立事業実施区域北東側からの状況を確認できる。	大型商業施設の利用者を中心に、夕涼み等の景観を楽しむ利用がみられる。
⑤	浦添市役所	浦添市	可視領域の可能性が高い。	公共施設のため利用性は高いと考えられる。
⑥	浦添グスク	浦添市		駐車場等の施設があり、観光地としての利用もみられる。
⑦	浦添大公園展望台	浦添市		駐車場等の施設があり、周囲の公園と併せた利用がみられる。
⑧	運動公園県道側東屋	浦添市		近傍に駐車場はなく、利用性はやや低いと考えられる。
⑨	ようどれ館北側展望台	浦添市		駐車場等の施設があり、観光地としての利用もみられる。
⑩	夕陽が丘公園	浦添市		駐車場等の施設はなく、地域住民の利用に限られると考えられる。
⑪	県営港川住宅	浦添市		公共施設ではないため住民の利用に限られると考えられる。
⑫	首里城	那覇市		駐車場等の施設があり、観光地としての利用もみられる。
⑬	雨乞御嶽	那覇市	可視領域の可能性が低い。	駐車場等の施設があり、周囲の公園と併せた利用がみられる。
⑭	嘉数高台公園	宜野湾市	可視領域の可能性が高い。	駐車場等の施設があり、観光地としての利用もみられる。
⑮	森川公園	宜野湾市	可視領域の可能性が低い。	駐車場等の施設があり、周囲の公園と併せた利用がみられる。

注：地点番号は、図 6.13.1.4 に対応している。

イ）景観資源の状況

文献等資料調査等より抽出した景観資源は、表 6.13.1.5 に示すとおりである。

抽出した景観資源の状況については、「6.9 地形・地質」及び本章の囲繞景観の現地調査で把握した。

表 6.13.1.5　埋立事業実施区域及びその周辺における景観資源と構成要素の概要

景観資源	構成要素の概要
干潟	埋立事業実施区域及びその周辺一帯が干潮時には干出する干潟域となっている。
岩礁	浦添ふ頭地区はサンゴ礁海域であり、基盤環境のほとんどが岩盤により構成されている。埋立事業実施区域の海岸のほとんどを占めている景観資源となっている。
サンゴ類	埋立事業実施区域内にはなく、沖合いのリーフエッジを中心に存在している。
藻場	リュウキュウスガモやウミヒルモなどの海草類をはじめ、アーサなどの地元住民にも親しまれている海藻類も繁茂している。
地形	地元のシンボルとなっているカーミージーの他、特徴的な地形として波食棚やノッチが存在する。

ウ）主要な眺望景観の状況

(a) 主要な眺望景観の状態把握

主要な眺望点から、構成要素として抽出した景観資源を含め、日中と夕方の時間帯で主要な眺望景観を撮影した。

主要な眺望点及び景観資源の関係は、表 6.13.1.6 に、主要な眺望点の位置は、図 6.13.1.5 に示すとおりである。また、主要な眺望点からの眺望景観の状況は、表 6.13.1.7 に示すとおりである。

表 6.13.1.6　主要な眺望点と景観資源の関係

主要な眺望点＼景観資源		［埋立事業実施区域］	干潟・岩礁	サンゴ類（リーフエッジ）	藻場	地形（カーミージー、ノッチ）
①	空寿崎護岸	○	○	○	△	○
②	西洲護岸	○	○	△	○	
③	浦添東緑地	○	△	△	△	
④	大型商業施設	○	○	○	△	
⑤	浦添市役所		△	○		
⑥	浦添グスク			△		
⑦	浦添大公園展望台			○		
⑧	運動公園県道側東屋			○		
⑨	ようどれ館北側展望台			○		
⑩	夕陽が丘公園			○		
⑪	県営港川住宅		△	○		
⑫	首里城			○		
⑬	嘉数高台公園			○		

注：1. ○印は景観資源として眺望できるものを、△は景観資源として含まれるものの眺望できないものを示す。
2. 主要な眺望点は可視領域の可能性が低い⑬雨乞御嶽、⑮森川公園は除いた。

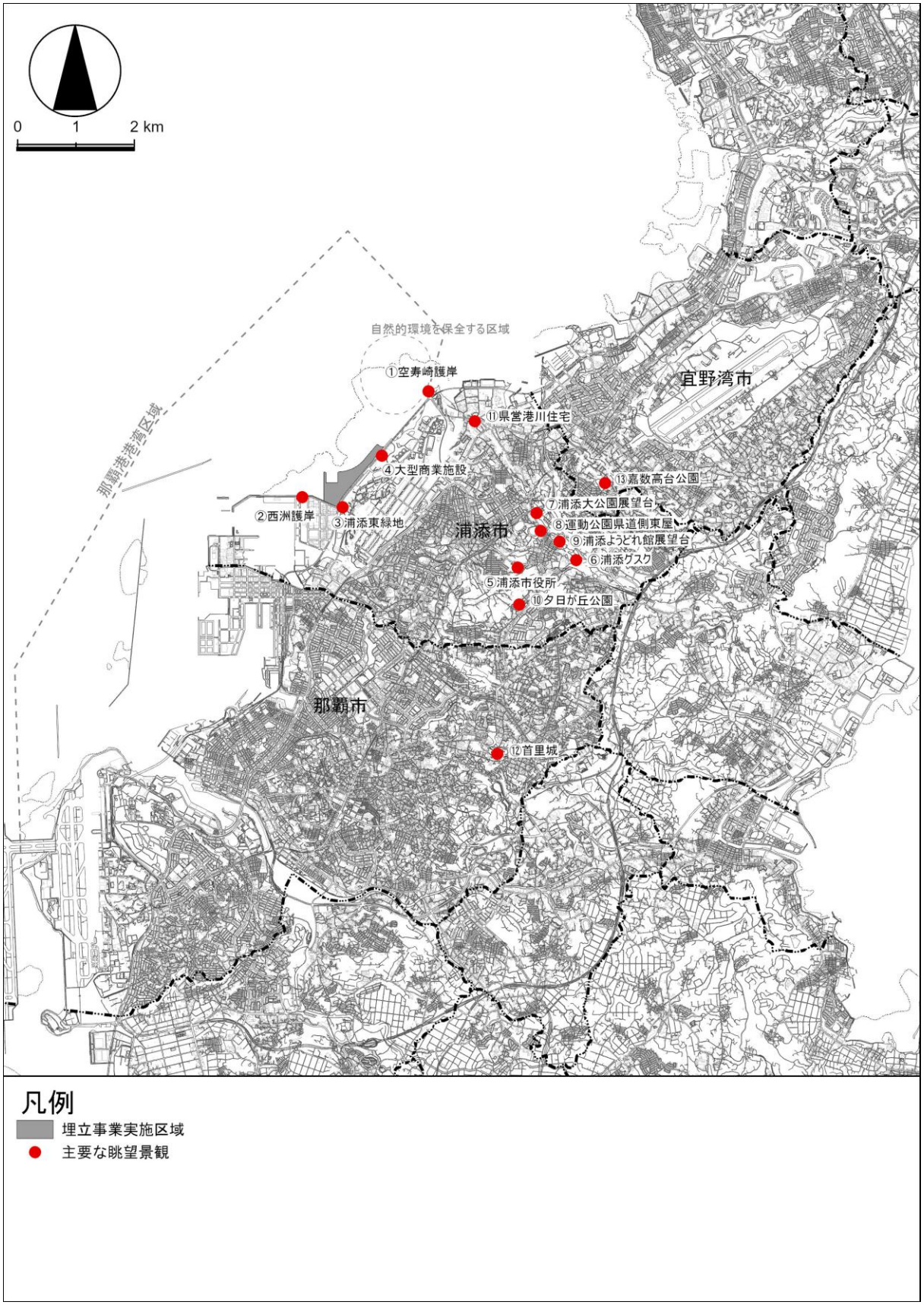


図 6.13.1.5　主要な眺望点位置

表 6.13.1.7（1）　主要な眺望景観の状況

<table>
<tr><td>地点番号</td><td>①</td><td>眺望点：視点場</td></tr>
<tr><td>眺望点名</td><td>空寿崎護岸</td><td rowspan="3">
</td></tr>
<tr><td>景観資源</td><td>● 埋立事業実施区域
● 干潟・岩礁
● サンゴ類（リーフエッジ）
● 藻場
● 史跡・文化財、地形</td></tr>
<tr><td>眺望状況</td><td>眺望が開けており、埋立事業実施区域北側からの状況を確認できる。</td></tr>
<tr><td>【日中】
撮影日時：
R6.9.27 11:52
潮位：90cm</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>【夕方】
撮影日時：
R6.9.26 18:43
潮位：146cm
日没：18:21</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

表 6.13.1.7（2）　主要な眺望景観の状況

<table>
<tr><td>地点番号</td><td>②</td><td colspan="2">眺望点：視点場</td></tr>
<tr><td>眺望点名</td><td>西洲護岸</td><td colspan="2" rowspan="2">
</td></tr>
<tr><td>景観資源</td><td>● 埋立事業実施区域
● 干潟・岩礁
● サンゴ類（リーフエッジ）
● 藻場
● 史跡・文化財</td></tr>
<tr><td>眺望状況</td><td>眺望が開けており、埋立事業実施区域南側からの状況を確認できる。</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>【日中】
撮影日時：
R6.9.26 13:43
潮位：146cm</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>【夕方】
撮影日時：
R6.9.30 17:38
潮位：180cm
日没：18:17</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

表 6.13.1.7（3）　主要な眺望景観の状況

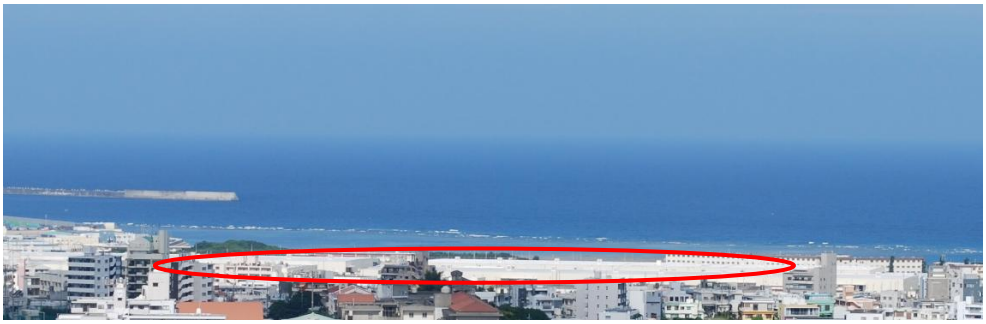
<table>
<tr><td>地点番号</td><td>③</td><td>眺望点：視点場</td></tr>
<tr><td>眺望点名</td><td>浦添東緑地</td><td rowspan="3">
</td></tr>
<tr><td>景観資源</td><td>● 埋立事業実施区域
● 干潟・岩礁
● サンゴ類（リーフエッジ）
● 藻場</td></tr>
<tr><td>眺望状況</td><td>既存の護岸が障害になるが、埋立事業実施区域東側からの状況を確認できる。</td></tr>
<tr><td>【日中】
撮影日時：
R6.9.17 11:43
潮位：24cm</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>【夕方】
撮影日時：
R6.9.30 18:01
潮位：195cm
日没：18:17</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

表 6.13.1.7（4）　主要な眺望景観の状況

<table>
<tr><td>地点番号</td><td>④</td><td>眺望点：視点場</td></tr>
<tr><td>眺望点名</td><td>大型商業施設（屋上）</td><td rowspan="3">
</td></tr>
<tr><td>景観資源</td><td>● 埋立事業実施区域
● 干潟・岩礁
● サンゴ類（リーフエッジ）
● 藻場</td></tr>
<tr><td>眺望状況</td><td>眺望が開けており、埋立事業実施区域北東側からの状況を確認できる。</td></tr>
<tr><td>【日中】
撮影日時：
R6.9.26 13:09
潮位：131cm</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>【夕方】
撮影日時：
R6.9.26 18:28
潮位：153cm
日没：18:21</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

表 6.13.1.7（5）　主要な眺望景観の状況

<table>
<tr><td>地点番号</td><td>⑤</td><td colspan="2">眺望点：視点場</td></tr>
<tr><td>眺望点名</td><td>浦添市役所</td><td colspan="2" rowspan="3">撮影位置

</td></tr>
<tr><td>景観資源</td><td>● 干潟・岩礁
● サンゴ類（リーフエッジ）</td></tr>
<tr><td>眺望状況</td><td>浦添ふ頭地区のリーフエッジを望むことができるが、埋立事業実施区域は確認できない。</td></tr>
<tr><td>【日中】
撮影日時：
R6.9.27 9:43</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>拡大</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

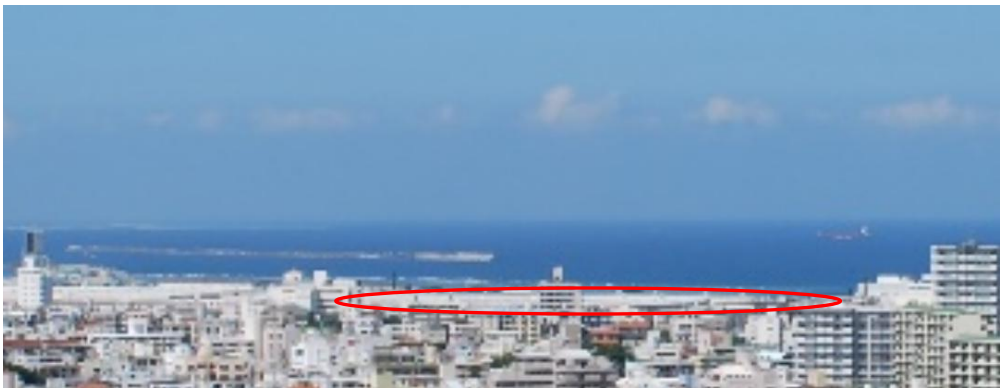
注：上記写真の赤枠の範囲を拡大。赤丸は埋立事業実施区域のおおよその位置

表 6.13.1.7（6）　主要な眺望景観の状況

<table>
<tr><td>地点番号</td><td>⑥</td><td>眺望点：視点場</td></tr>
<tr><td>眺望点名</td><td>浦添グスク</td><td rowspan="3">
</td></tr>
<tr><td>景観資源</td><td>●　サンゴ類（リーフエッジ）</td></tr>
<tr><td>眺望状況</td><td>埋立事業実施区域は確認できない。</td></tr>
<tr><td>【日中】
撮影日時：
R7.9.22 14:12</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

表 6.13.1.7（7）　主要な眺望景観の状況

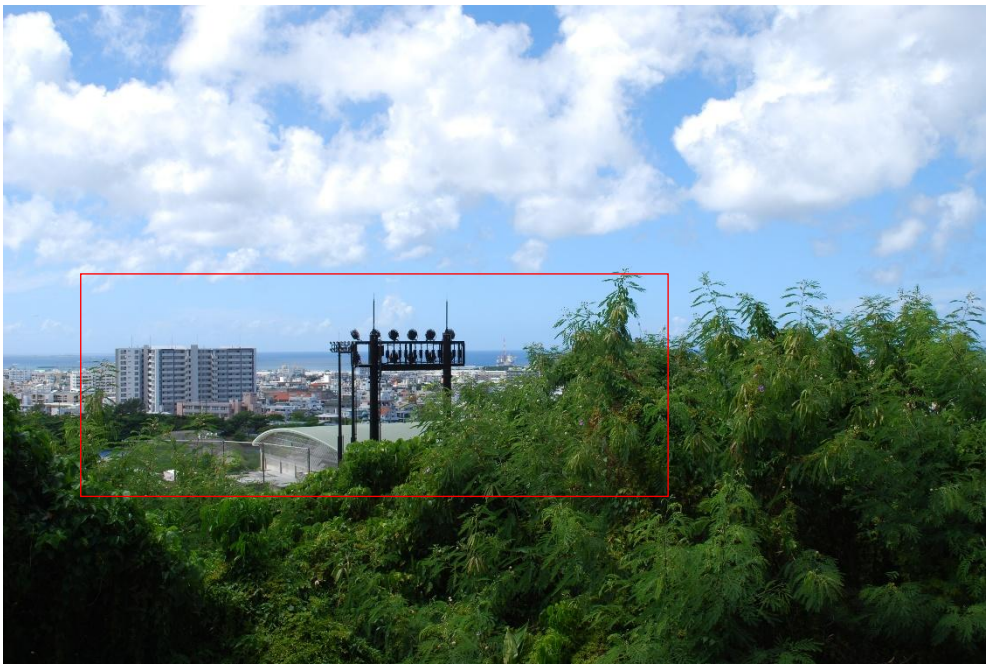
<table>
<tr><td>地点番号</td><td>⑦</td><td rowspan="4">眺望点：視点場

</td></tr>
<tr><td>眺望点名</td><td>浦添大公園展望台</td></tr>
<tr><td>景観資源</td><td>●　サンゴ類（リーフエッジ）</td></tr>
<tr><td>眺望状況</td><td>埋立事業実施区域は確認できない。</td></tr>
<tr><td>【日中】
撮影日時：
R6.9.27 10:43</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>拡大</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

注：上記写真の赤枠の範囲を拡大。赤丸は埋立事業実施区域のおおよその位置

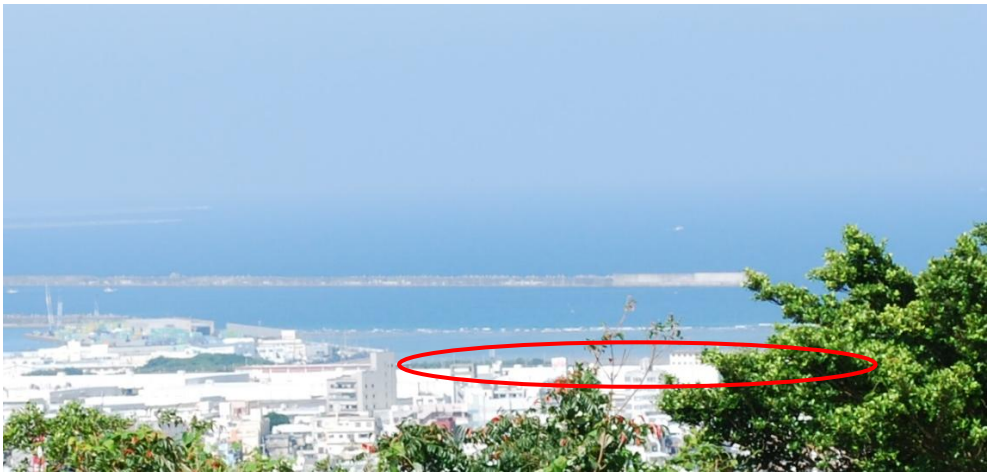
表 6.13.1.7（8）　主要な眺望景観の状況

<table>
<tr><td>地点番号</td><td>⑧</td><td rowspan="4">眺望点：視点場

</td></tr>
<tr><td>眺望点名</td><td>運動公園県道側東屋</td></tr>
<tr><td>景観資源</td><td>●　サンゴ類（リーフエッジ）</td></tr>
<tr><td>眺望状況</td><td>埋立事業実施区域は確認できない。</td></tr>
<tr><td>【日中】
撮影日時：
R7.9.22 13:37</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>拡大</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

注：上記写真の赤枠の範囲を拡大。赤丸は埋立事業実施区域のおおよその位置

表 6.13.1.7（9）　主要な眺望景観の状況

<table>
<tr><td>地点番号</td><td>⑨</td><td>眺望点：視点場</td></tr>
<tr><td>眺望点名</td><td>ようどれ館北側展望台</td><td rowspan="3">
</td></tr>
<tr><td>景観資源</td><td>●　サンゴ類（リーフエッジ）</td></tr>
<tr><td>眺望状況</td><td>埋立事業実施区域は確認できない。</td></tr>
<tr><td>【日中】
撮影日時：
R6.9.27 10:20</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>拡大</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

注：上記写真の赤枠の範囲を拡大。赤丸は埋立事業実施区域のおおよその位置

表 6.13.1.7（10）　主要な眺望景観の状況

<table>
<tr><td>地点番号</td><td>⑩</td><td rowspan="4">眺望点：視点場

</td></tr>
<tr><td>眺望点名</td><td>夕陽が丘公園</td></tr>
<tr><td>景観資源</td><td>●　サンゴ類（リーフエッジ）</td></tr>
<tr><td>眺望状況</td><td>埋立事業実施区域は確認できない。</td></tr>
<tr><td>【日中】
撮影日時：
R7.9.22 14:43</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>拡大</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

注：上記写真の赤枠の範囲を拡大。赤丸は埋立事業実施区域のおおよその位置

表 6.13.1.7（11）　主要な眺望景観の状況

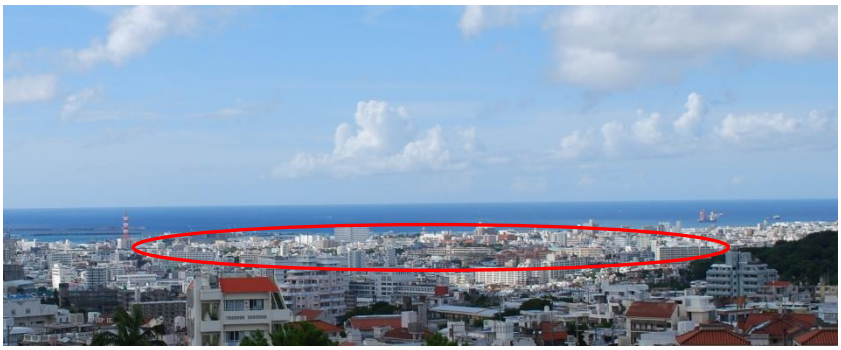
<table>
<tr><td>地点番号</td><td>⑪</td><td colspan="2">眺望点：視点場</td></tr>
<tr><td>眺望点名</td><td>県営港川住宅</td><td colspan="2" rowspan="3">
</td></tr>
<tr><td>景観資源</td><td>● 干潟・岩礁
● サンゴ類（リーフエッジ）</td></tr>
<tr><td>眺望状況</td><td>浦添ふ頭地区のリーフエッジを望むことができるが、埋立事業実施区域は確認できない。</td></tr>
<tr><td>【日中】
撮影日時：
R6.9.26 11:20

拡大</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

注：上記写真の赤枠の範囲を拡大。赤丸は埋立事業実施区域のおおよその位置

表 6.13.1.7（12）　主要な眺望景観の状況

<table>
<tr><td>地点番号</td><td>⑫</td><td rowspan="4">眺望点：視点場

</td></tr>
<tr><td>眺望点名</td><td>首里城</td></tr>
<tr><td>景観資源</td><td>●　サンゴ類（リーフエッジ）</td></tr>
<tr><td>眺望状況</td><td>埋立事業実施区域は確認できない。</td></tr>
<tr><td>【日中】
撮影日時：
R7.9.24 15:22</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>拡大</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

注：上記写真の赤枠の範囲を拡大。赤丸は埋立事業実施区域のおおよその位置

表 6.13.1.7（13）　主要な眺望景観の状況

<table>
<tr><td>地点番号</td><td>⑬</td><td rowspan="4">眺望点：視点場

</td></tr>
<tr><td>眺望点名</td><td>嘉数高台公園</td></tr>
<tr><td>景観資源</td><td>●　サンゴ類（リーフエッジ）</td></tr>
<tr><td>眺望状況</td><td>埋立事業実施区域は確認できない。</td></tr>
<tr><td>【日中】
撮影日時：
R7.9.22 11:52</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>拡大</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

注：上記写真の赤枠の範囲を拡大。赤丸は埋立事業実施区域のおおよその位置

エ）眺望景観の価値の把握

眺望景観について、普遍価値（自然性、眺望性、利用性）及び固有価値（固有性、歴史性、親近性）に区分し、その価値を把握した。

価値の把握については、表 6.13.1.8 に示すとおりである。

表 6.13.1.8（1）　眺望景観の価値の状況

価値軸	認識項目	有する価値
①空寿崎護岸		
普遍価値	自然性	海域においては干潟が前面に広がり、藻場やサンゴ類も分布している。海岸は人工の直立護岸で、視界には臨港道路（浦添線）の橋梁が含まれている。
	眺望性	陸域と干潟域が人工護岸により分断されているが、海側は水平線まで見渡すことができる。
	利用性	駐車場が整備され、家族連れによる潮干狩りや自然観察会等に多く利用されている。
固有価値	固有性	主な景観構成要素である干潟は、他の地域にも存在するが、本島中部の西海岸においては、残された干潟となっている。
	歴史性	国土地理院の地形図を見ると、空寿崎周辺は昭和 36 年以降に埋立てられており、この頃を境に価値が変化したと考えられ、場としての歴史は比較的新しい。
	親近性	地元の自治会や港川小学校等が里海保全の活動を行っているほか、近隣の市民に親しまれている。また、臨港道路が開通し、多くの人々が眺望できるようになっている。
②西洲護岸		
普遍価値	自然性	海域においては干潟が前面に広がり、藻場やサンゴ類も分布し、自然的価値を有する。海岸は人工の直立護岸で、視界には臨港道路（浦添線）及び既存の埋立地等が含まれている。
	眺望性	眺望性を確保するために護岸に登る必要はあるが、護岸上からは沖合及び沖縄島中部の海岸まで見渡すことができる。
	利用性	浦添東緑地には駐車場が整備され、緑地での休憩利用がみられるものの、海側へのルートがやや遠い。また、西洲の既存の埋立地側に駐車場はない。護岸沿いに設置された複数の木梯子で護岸の上に登ることができる。
固有価値	固有性	主な景観構成要素である干潟や藻場は、他の地域にも存在するが、本島中部の西海岸においては、残された干潟や藻場となっている。
	歴史性	西洲の埋立地は近年造成された場所であり、場としての歴史は比較的新しい。
	親近性	業務地区に隣接し、眺望のためには護岸沿いに設置された木梯子で護岸の上に登る必要がある。

表 6.13.1.8（2）　眺望景観の価値の状況

価値軸	認識項目	有する価値
③浦添東緑地		
普遍価値	自然性	海域においては干潟が前面に広がり、藻場も分布している。しかし、海岸は護岸に阻まれ、視界の大半は臨港道路（浦添線）及び既存の埋立地等に占められている。
	眺望性	建造物等はないが、眺望点の標高が低く、臨港道路（浦添線）の交通量も多い。
	利用性	駐車場が整備され、緑地での休憩利用がみられる。
固有価値	固有性	主な景観構成要素である干潟や藻場は、他の地域にも存在するが、本島中部の西海岸においては、残された干潟や藻場となっている。
	歴史性	西洲の埋立地は近年造成された場所であり、場としての歴史は比較的新しい。
	親近性	臨港道路が開通し、大型商業施設や緑地を休憩利用する人々が眺望できる。
④大型商業施設（屋上）		
普遍価値	自然性	海域においては干潟が前面に広がり、藻場やサンゴ類も分布している。海岸は自然石の緩傾斜護岸で、視界には臨港道路（浦添線）及び既存の埋立地等が含まれている。
	眺望性	眺望点の標高が高く、慶良間諸島まで見渡すことができる。
	利用性	駐車場及び展望デッキが整備されて、景観を楽しむ利用がみられる。
固有価値	固有性	眺望点が高い場所から、本島中部の西海岸において残された干潟や藻場を一望できる。
	歴史性	西洲の埋立地は近年造成された場所であり、場としての歴史は比較的新しい。
	親近性	臨港道路が開通し、大型商業施設を利用する多くの人々が眺望できる。

注：⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬からは埋立事業実施区域は確認できない。

（イ）囲繞景観の状況

ア）景観区の区分

埋立事業実施区域及びその周辺の囲繞景観について、既存の現地調査等を参考に景観区分を行った結果は、表 6.13.1.9 に示すとおりである。

表 6.13.1.9　囲繞景観の景観区分

地学要素	岩盤、転石、砂礫、砂
生物要素	サンゴ類分布域、藻場分布域
人文要素	埋立事業実施区域内、埋立事業実施区域外（南北）

イ）囲繞景観の状況

埋立事業実施区域内外においてそれぞれの景観区分を網羅するよう囲繞景観の地点を設けた。

景観区の区分の結果及び調査地点は、表 6.13.1.10 及び図 6.13.1.3 に示し、各景観区の状況は、表 6.13.1.11 に示すとおりである。

表 6.13.1.10　囲繞景観の景観区分の結果及び調査地点

地点番号	埋立区分	景観区分	撮影方向	撮影日
①	外（自然）	岩盤	W	令和 6 年 9 月 20 日
②	外（自然）	混成藻場	E	令和 6 年 9 月 20 日
③	外（自然）	岩盤	S	令和 6 年 9 月 20 日
④	外（自然）	砂礫	E	令和 6 年 9 月 20 日
⑤	外（自然）	海草藻場	S	令和 6 年 9 月 20 日
⑥	外（自然）	海草藻場	E	令和 6 年 9 月 20 日
⑦	外（自然）	海草藻場	W	令和 6 年 9 月 20 日
⑧	外（自然）	混成藻場	E	令和 6 年 9 月 20 日
⑨	外（自然）	岩盤	E	令和 6 年 9 月 20 日
⑩	外（自然）	岩盤	N	令和 6 年 9 月 20 日
⑪	外（自然）	転石	N	令和 6 年 9 月 20 日
⑫	外（自然）	砂礫	S	令和 6 年 9 月 20 日
⑬	外（自然）	砂	N	令和 6 年 9 月 20 日
⑭	外	砂礫	E	令和 6 年 9 月 17 日
⑮	内	海草藻場	W	令和 6 年 9 月 17 日
⑯	外	岩盤	S	令和 6 年 9 月 17 日
⑰	内	砂礫	S	令和 6 年 9 月 17 日
⑱	外	海草藻場	S	令和 6 年 9 月 17 日
⑲	内	岩盤・砂	E	令和 6 年 9 月 17 日
⑳	内	砂礫	S	令和 6 年 9 月 17 日
㉑	内	岩盤	W	令和 6 年 9 月 20 日
㉒	外	岩盤	E	令和 6 年 9 月 20 日
㉓	内	混成藻場	W	令和 6 年 9 月 20 日
㉔	内	海草藻場	S	令和 6 年 9 月 20 日
㉕	外	サンゴ類	E	令和 6 年 9 月 17 日
㉖	外	岩盤	W	令和 6 年 9 月 17 日
㉗	内	サンゴ類	N	令和 6 年 9 月 17 日

※埋立区分　内：埋立事業実施区域内、外：埋立事業実施区域外、外（自然）：自然的環境を保全する区域内

表 6.13.1.11（1）　囲繞景観の状況

地点番号	①	②
埋立区分	自然的環境を保全する区域内	自然的環境を保全する区域内
景観区分	岩盤	混成藻場
		
地点番号	③	④
埋立区分	自然的環境を保全する区域内	自然的環境を保全する区域内
景観区分	岩盤	砂礫
		
地点番号	⑤	⑥
埋立区分	自然的環境を保全する区域内	自然的環境を保全する区域内
景観区分	海草藻場	海草藻場
		

表 6.13.1.11（2）　囲繞景観の状況

地点番号	⑦	⑧
埋立区分	自然的環境を保全する区域内	自然的環境を保全する区域内
景観区分	海草藻場	混成藻場
		
地点番号	⑨	⑩
埋立区分	自然的環境を保全する区域内	自然的環境を保全する区域（海岸線）
景観区分	岩盤	岩盤
		
地点番号	⑪	⑫
埋立区分	自然的環境を保全する区域（海岸線）	自然的環境を保全する区域（海岸線）
景観区分	転石	砂礫
		

表 6.13.1.11（3）　囲繞景観の状況

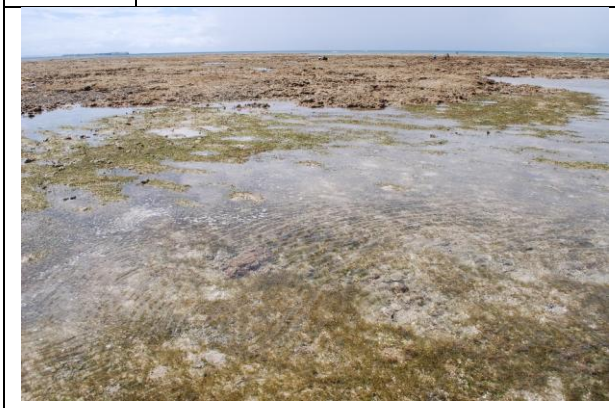
地点番号	⑬	⑭
埋立区分	自然的環境を保全する区域（海岸線）	埋立事業実施区域外
景観区分	砂	砂礫
		
地点番号	⑮	⑯
埋立区分	埋立事業実施区域内	埋立事業実施区域外
景観区分	海草藻場	岩盤
		
地点番号	⑰	⑱
埋立区分	埋立事業実施区域内	埋立事業実施区域外
景観区分	砂礫	海草藻場
		

表 6.13.1.11（4）　囲繞景観の状況

地点番号	⑲	⑳
埋立区分	埋立事業実施区域内	埋立事業実施区域内
景観区分	岩盤・砂	砂礫
		
地点番号	㉑	㉒
埋立区分	埋立事業実施区域内	埋立事業実施区域外
景観区分	岩盤	岩盤
		
地点番号	㉓	㉔
埋立区分	埋立事業実施区域内	埋立事業実施区域内
景観区分	混成藻場	海草藻場
		

表 6.13.1.11（5）　囲繞景観の状況

地点番号	㉕	㉖
埋立区分	埋立事業実施区域外	埋立事業実施区域外
景観区分	サンゴ類	岩盤
		
地点番号	㉗	
埋立区分	埋立事業実施区域内	
景観区分	サンゴ類	
		

ウ）囲繞景観の価値の把握

囲繞景観について、ヒアリング調査を表 6.13.1.12 に示すとおり実施し、囲繞景観の景観区分の価値を普遍価値は多様性、自然性及び利用性、固有価値は固有性、郷土性及び親近性に設定した。囲繞景観の景観区分の価値の設定にあたっては、ヒアリング調査結果から意見が多く出たものを設定した。設定した価値を既存資料、ヒアリング調査から把握した。

価値の把握については、表 6.13.1.13 に示すとおりである。

表 6.13.1.12　ヒアリング実施概要

対象者	調査期日
漁協職員 1 名	令和 7 年 7 月 4 日
地元環境保全・利用団体 1 名	令和 7 年 8 月 13 日
地元自治会 2 名	令和 7 年 8 月 18 日
地元小学校職員 1 名	令和 7 年 8 月 19 日
地元環境保全・利用団体 1 名	令和 7 年 8 月 27 日

表 6.13.1.13　囲繞景観の価値の状況

区分	景観区分	囲繞景観の価値		価値の内容
カーミージー橋南端以南	岩盤 海草藻場 混成藻場 サンゴ類 砂 砂礫	普遍価値	多様性	海藻草類がパッチ状に生育し、藻場と海底面の岩礁や砂礫、サンゴ類、砂によるモザイク状の景観を形成している。
			自然性	沖縄県のリーフの中で、海岸からリーフエッジまで距離があり、大部分が干上がるリーフである特徴を持つ。沖縄島内の他の干潟と比べ、自然が残っている。
			利用性	浜下りやイザリに利用されている場所もあるが、駐車場が限られている。大型商業施設前には階段がある。
		固有価値	固有性	浦添の海域や地形にはそれぞれ名前がついている。藻場の被度が高い。
			郷土性	地域の生活習慣として、アーサやモズクを採っていた。現在はイザリをしている人がいるが、漁協や自治会よる伝統行事や祭礼等での利用はない。
			親近性	車を停めて夕日を眺める等の夕涼みをしている人がよくおり、ビーチクリーンも行われている。
カーミージー橋南端以北（自然環境を保全する区域を含む）	岩盤 海草藻場 混成藻場 サンゴ類 砂 砂礫 転石	普遍価値	多様性	遠浅のリーフで、パッチ状に生育する海藻草類、海底面の岩礁や砂礫、リーフエッジ付近のサンゴ類、砂や転石、沿岸域の植生がモザイク状の景観を形成している。そこに多様な生物が生息する里浜のイノー海域である。
			自然性	沖縄県のリーフの中で、海岸からリーフエッジまで距離があり、大部分が干上がるリーフである特徴を持つ。沖縄島内の他の干潟と比べ、自然が残っている。ソフトコーラルが広がる良い景観もある。
			利用性	潮干狩り、浜下り、イザリ等で利用されている。カーミージー近辺は駐車場からトンネルや階段を利用して海に下りられる。
		固有価値	固有性	カーミージー橋と名前がついている要素がある。朝日・夕日、潮汐、四季の変化で見え方が変わり、海草藻場、天然のアーサが広がっている。
			郷土性	カーミージー自体が拝所のような存在となっており、地域の生活習慣・文化・シンボル・聖地に繋がっている。地域の小学生が環境学習を実施しており、その際、地域の方がバスの運転、草刈、テント張り等を協力している。地域の生活習慣として、アーサやモズクを獲っていた。現在はイザリをしている人がいる。漁協や自治会よる伝統行事や祭礼等での利用はない。
			親近性	カーミージーを大事にしており、拝所を利用して拝みをしている。ビーチクリーンが行われている。潮干狩り、浜下り等で利用されている。

6.13.2 予測

景観の影響要因及びその内容は、表 6.13.2.1 に示すとおりである。

表 6.13.2.1　影響要因とその内容

項目	影響要因	内容
施設等の存在及び供用	・　埋立地の存在	・　人工物（埋立地）の出現による景観構成要素の改変の影響

(1) 施設等の存在及び供用

1) 予測項目

（ア）眺望景観の状況

（イ）囲繞景観の状況

2) 予測概要

景観の予測概要は、表 6.13.2.2、図 6.13.2.1 に示すとおりである。

表 6.13.2.2　予測の概要

予測項目		予測地点	実施内容
（ア）眺望景観の状況	ア)主要な眺望景観の変化	予測地域のうち、代表的な眺望点を設定	主要な眺望点及び景観資源についての分布の改変の程度を踏まえ、埋立事業実施区域を確認することが可能な主要な眺望景観についてのフォトモンタージュ法により予測した。 眺望景観の価値の変化について定性的に予測した。
	イ)眺望景観の価値の変化		
（イ）囲繞景観の状況	ア)場の改変の程度	埋立事業実施区域及びその周辺における景観区分のうち代表的な地点	景観区の区分と事業による直接改変域を地形図上で重ね合わせることにより、囲繞景観の状態が変化する景観区を抽出した上で、直接改変による改変面積率等や景観区の場、利用、眺めの状態の変化を示すことにより予測した。
	イ)囲繞景観の価値の変化		

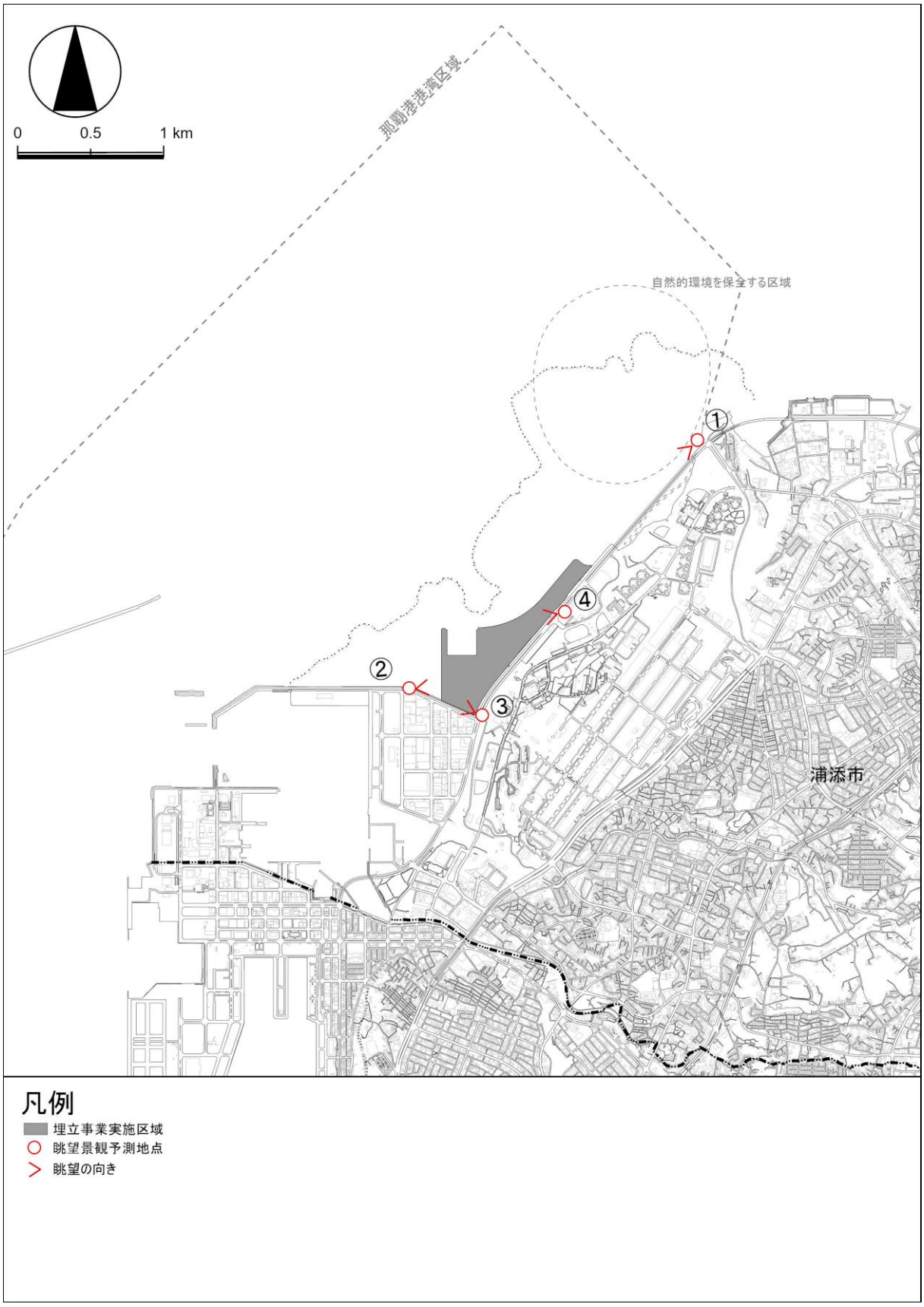


図 6.13.2.1　眺望景観の予測地点

3）予測結果

（ア）眺望景観の状況

ア）主要な眺望景観の変化

主要な眺望景観として抽出した 13 地点のうち埋立事業実施区域を確認できる 4 地点において、現況と埋立地の存在時における主要な眺望景観の変化について、フォトモンタージュ法により改変の影響を予測した結果は、表 6.13.2.3 に示すとおりである。

表 6.13.2.3（1）　眺望景観のフォトモンタージュ結果（①空寿崎護岸）

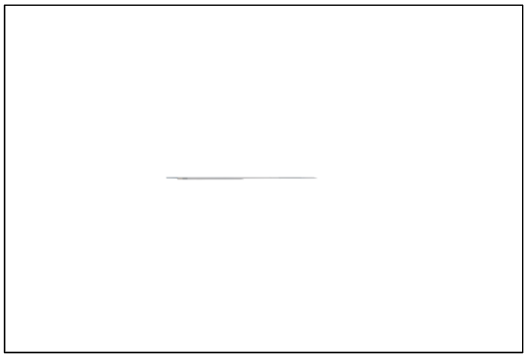
現況	
存在時	
フォトモンタージュ内における埋立地の位置	

表 6.13.2.3 (2)　眺望景観のフォトモンタージュ結果（②西洲護岸）

現況	
存在時	

表 6.13.2.3（3）　眺望景観のフォトモンタージュ結果（③浦添東緑地）

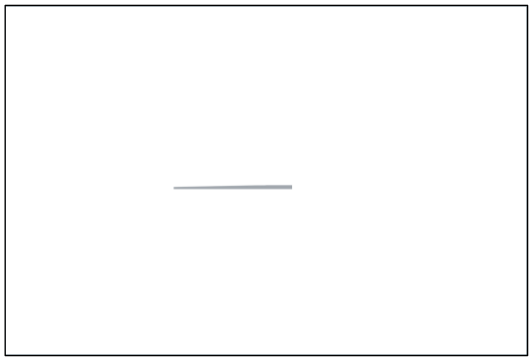
現況	
存在時	
フォトモンタージュ内における埋立地の位置	

表 6.13.2.3（4）　眺望景観のフォトモンタージュ結果（④大型商業施設（屋上））

現況	
存在時	

注：フォトモンタージュ内の線は土地利用計画の区域の境界を示す。

イ）眺望景観の価値の変化

前項の主要な眺望景観の変化の予測結果を踏まえ、眺望景観の価値の変化の予測を行った結果については、表 6.13.2.4 に示すとおりである。

表 6.13.2.4　眺望景観の価値の変化

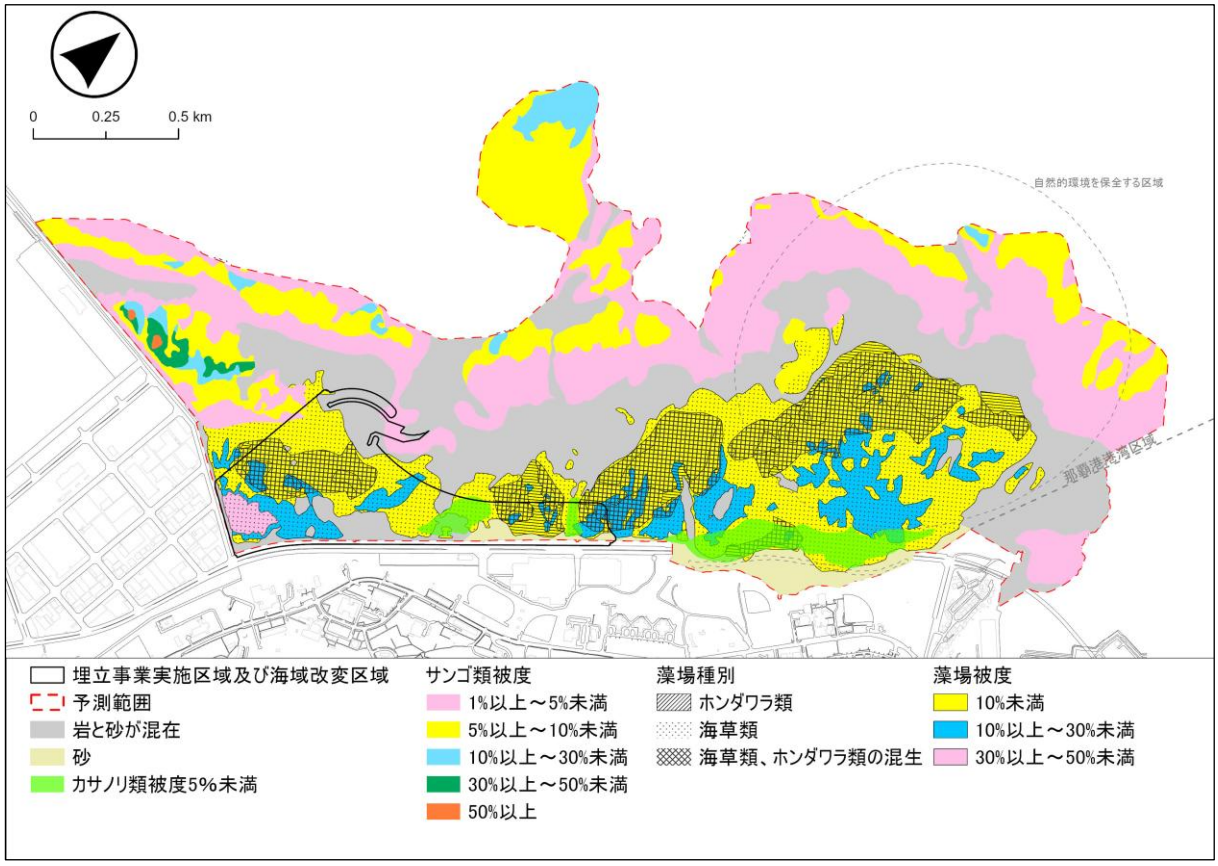
眺望景観地点	価値軸	認識項目	変化の内容（埋立地の存在）
①空寿崎護岸	普遍価値	自然性	埋立地の存在に伴い、人工物が景観構成要素に占める程度が増加するが、埋立地の背後は人工物であるため変化は小さい。
		眺望性	眺望を遮る建物はなく、広い視野の確保は維持される。
		利用性	利用性に変化はない。
	固有価値	固有性	中・遠景に埋立地が存在するが、近景における主な景観構成要素に変化はない。
		歴史性	歴史性に変化はない。
		親近性	親近性に変化はない。
②西洲護岸	普遍価値	自然性	埋立地の存在に伴い、主な景観構成要素である藻場や干潟が消失し、人工物が景観構成要素に占める程度が増加する。
		眺望性	眺望を遮る建物はなく、広い視野の確保は維持される。
		利用性	利用性に変化はない。
	固有価値	固有性	埋立地の存在に伴い、主な景観構成要素である藻場や干潟が消失する。
		歴史性	歴史性に変化はない。
		親近性	親近性に変化はない。
③浦添東緑地	普遍価値	自然性	埋立地の存在に伴い、人工物が景観構成要素に占める程度が増加するが、変化は極めて小さい。
		眺望性	眺望性に変化はない。
		利用性	利用性に変化はない。
	固有価値	固有性	埋立地の存在に伴い、主な景観構成要素である藻場や干潟が消失するが、眺望点からの景観は現在の地形により埋立地のほとんどが遮られるため、変化は極めて小さい。
		歴史性	歴史性に変化はない。
		親近性	親近性に変化はない。
④大型商業施設（屋上）	普遍価値	自然性	埋立地の存在に伴い、主な景観構成要素である藻場や干潟が消失し、人工物が景観構成要素に占める程度が増加する。
		眺望性	眺望を遮る建物はなく、広い視野の確保は維持される。
		利用性	利用性に変化はない。
	固有価値	固有性	埋立地の存在に伴い、主な景観構成要素である藻場や干潟が消失するが、眺望点が高い場所から景観を一望できる固有性は維持される。
		歴史性	歴史性に変化はない。
		親近性	親近性に変化はない。

以上のことから、埋立地の存在に伴い、全ての地点で人工物が景観構成要素に占める程度が増加する。また、西洲護岸及び大型商業施設（屋上）では本事業により藻場や干潟が消失し、人工物に変わるため、普遍価値における自然性の変化及び固有価値における固有性の変化が生じると考えられる。しかし、全ての地点で構成要素に既存人工物が含まれており、主要な景観資源の減少はほとんど見られないことから、眺望景観の埋立地の存在による影響は極めて小さいと予測した。

（イ）囲繞景観の状況

ア）場の改変の程度

囲繞景観を構成する景観区分と事業による直接改変域の重ね合わせは図 6.13.2.2 に、囲繞景観の景観区分の結果は表 6.13.2.5 に、囲繞景観の状態が変化する景観区分の改変面積率は表 6.13.2.6 に示すとおりである。



注：1. サンゴ類及び藻場の種別及び被度は令和 7 年春季調査結果を示す。
2. 図中の藻場被度について、海草類及びホンダワラ類の混成藻場は海草類の被度を示している。
3. 海底基盤「岩と砂が混在」は、岩盤上のくぼ地等にパッチ上に砂が分布している範囲を示す。
4. 「岩と砂が混在」は、現地調査における「岩盤」の景観区分が含まれる。
5. 「砂」は、現地調査における「岩盤」、「転石」、「砂礫」及び「砂」が含まれる。
6. 自然的環境を保全する区域の改変はない。

図 6.13.2.2　囲繞景観の状態が変化する景観区

表 6.13.2.5　囲繞景観の景観区分の結果

地点番号	埋立区分	景観区分	地点番号	埋立区分	景観区分
①	外（自然）	岩盤	⑮	内	海草藻場
②	外（自然）	混成藻場	⑯	外	岩盤
③	外（自然）	岩盤	⑰	内	砂礫
④	外（自然）	砂礫	⑱	外	海草藻場
⑤	外（自然）	海草藻場	⑲	内	岩盤・砂
⑥	外（自然）	海草藻場	⑳	内	砂礫
⑦	外（自然）	海草藻場	㉑	内	岩盤
⑧	外（自然）	混成藻場	㉒	外	岩盤
⑨	外（自然）	岩盤	㉓	内	混成藻場
⑩	外（自然）	岩盤	㉔	内	海草藻場
⑪	外（自然）	転石	㉕	外	サンゴ類
⑫	外（自然）	砂礫	㉖	外	岩盤
⑬	外（自然）	砂	㉗	内	サンゴ類
⑭	外	砂礫	－	－	－

表 6.13.2.6　囲繞景観の状態が変化する景観区分の改変面積とその割合

基盤環境		総面積	施設等の存在及び供用	
			埋立事業実施区域及び海域改変区域	
		ha	ha	%
サンゴ類	被度1%以上～5%未満	90.2	0.6	0.7%
	被度5%以上～10%未満	47.8	0.1	0.2%
	被度10%以上～30%未満	6.4	0.0	0.0%
	被度30%以上～50%未満	2.0	0.0	0.0%
	被度50%以上	0.2	0.0	0.0%
	合計	146.6	0.7	0.5%
海草藻場	被度10%未満	84.7	17.7	20.9%
	被度10%以上～30%未満	22.5	5.9	26.2%
	被度30%以上～50%未満	1.7	1.7	100.0%
	合計	108.9	25.3	23.2%
ホンダワラ藻場	被度10%未満	29.0	7.8	26.9%
	被度10%以上～30%未満	14.5	2.1	14.5%
	被度30%以上～50%未満	1.0	0.0	0.0%
	合計	44.5	9.9	22.2%
岩と砂が混在		86.5	8.1	9.4%
砂		8.3	1.4	16.9%
	総計	350.3	35.5	10.1%

注：1.面積の表記が「0」であることは、改変が行われないことを示す。
2.サンゴ類及び藻場の被度は令和7年春季調査結果を示す。
3.海底基盤「岩と砂が混在」は、岩盤上のくぼ地等にパッチ上に砂が分布している範囲を示す。
4.「岩と砂が混在」は、現地調査における「岩盤」の景観区分が含まれる。
5.「砂」は、現地調査における「岩盤」、「転石」、「砂礫」及び「砂」が含まれる。

イ）囲繞景観の価値の変化

囲繞景観の価値の変化については、表 6.13.2.7 に示すとおりである。

埋立地の存在により、埋立事業実施区域及び海域改変区域においては、基盤環境の一部が消失し、人工物による圧迫感等が生じると考えられる。また、海草藻場の被度が高い区域が消失することから、固有性の変化が考えられる。これらの自然性及び固有性の変化が考えられる地点について、埋立事業実施区域及び海域改変区域外にも同様の景観区分が存在しているため、リーフ内における埋立地の存在に伴う影響は極めて小さいと考えられる。

また、多様性、利用性、郷土性、親近性の変化は極めて小さいと考えられる。

表 6.13.2.7　囲繞景観の価値の変化

景観区分[注]	価値軸	認識項目	価値の変化
岩盤 砂礫 砂 サンゴ類 海草藻場 混成藻場	普遍価値	多様性	埋立地の存在により基盤環境のうち、パッチ状に生育する海草藻場と海底面の岩礁や砂礫によるモザイク状の景観が消失することになるが、自然環境を保全する区域周辺に高い多様性を有する基盤環境が残存するため、多様性の変化は小さいと考えられる。
		自然性	埋立地の存在により、リーフ内の浅海域が消失し、人工物の圧迫感を感じると考えられる。
		利用性	埋立地の存在により、浜下りやイザリの利用面積が制限されるが、西洲護岸や埋立地に創出される緑地等から類似した環境を利用することができる。
	固有価値	固有性	埋立地の存在により、海草藻場の被度が高い区域が消失する。
		郷土性	埋立地の存在により、アーサやモズク採り、イザリの利用面積が制限されるが、西洲護岸や埋立地に創出される緑地等から類似した環境を利用することができる。
		親近性	埋立地の存在により、ビーチクリーン等の活動のための利用面積が制限されるが、西洲護岸や埋立地の沖側の類似した環境、埋立地に創出される緑地等を利用することができる。

注：改変を受ける景観区分のみ抽出した。

以上のことから、囲繞景観の埋立地の存在による影響は、埋立事業実施区域及び海域改変区域において基盤環境の一部が消失し、自然性及び固有性の変化が考えられるが、リーフ内に同様の景観区分が残存し、多様性、利用性、郷土性、親近性の変化は極めて小さいと考えられることから、囲繞景観の埋立地の存在による影響は極めて小さいと予測した。

6.13.3 評価

(1) 施設等の存在及び供用

1) 環境影響の回避又は低減に係る評価

（ア）環境保全措置の検討

景観について、施設等の存在及び供用に伴う影響を低減するため、以下に示す環境保全措置を講じることとした。

- 本事業において、緑地等を南北に長く設けて、夕日の西方向への視界が開けるような配置に変更した。
- 環境影響を低減するため、北側の「自然的環境を保全する区域」との距離を確保した。
- 周辺地域の修景に努めるため、護岸の一部に自然石を用いることを前提に検討することとした。

上記の環境保全措置を予測の前提として検討した結果、施設等の存在及び供用に伴う影響を以下に示すとおり予測した。

＜眺望景観＞

- 埋立地の存在に伴い、人工物が景観構成要素に占める程度が大きくなり、固有の海草藻場が消失することから普遍価値及び固有価値が変化する眺望点もあるが、全ての地点で構成要素に既存人工物が含まれており、主要な景観資源の減少はほとんどみられないことから、眺望景観の埋立地の存在による影響は極めて小さいと予測した。

＜囲繞景観＞

- 埋立地の存在に伴い、埋立事業実施区域及び海域改変区域において基盤環境の一部が消失し、自然性及び固有性が変化すると考えられるが、リーフ内において消失する基盤環境と同様の景観区分は残存し、多様性、利用性、郷土性、親近性の変化は極めて小さいと考えられることから、囲繞景観の埋立地の存在による影響は極めて小さいと予測した。

本事業においては、人工物による圧迫感等を可能な限り低減するため、自然石を用いることを前提に検討するが、囲繞景観については、自然石護岸ではない箇所において人工物による圧迫感等が考えられる。しかし、護岸形状については波浪等の設計条件を満たす構造にする必要があるため、さらなる環境保全措置は講じないこととした。

また、囲繞景観については、固有の海草藻場が消失するが、「那覇港（浦添ふ頭地区）港湾整備に伴う海域環境保全マニュアル」（令和7年11月、那覇港管理組合）では「干潟、藻場の避難・再生措置については、原則として実施しないものとし、必要性が生じた場合には対象海域への適用性を検討する。」との方針を参考に、また亜熱帯性海草の移植事例がほとんどないことから、海草藻場について、環境保全措置は実施しないこととした。

（イ）環境影響の回避又は低減の検討

調査及び予測の結果、並びに前項に示す環境保全措置の検討結果を踏まえると、施設等の存在及び供用に伴う主要な眺望景観の変化及び囲繞景観における場の改変の程度や、眺望景観及び囲繞景観の価値の変化については、環境保全措置を講じることにより、回避又は低減が期待できるものと考えられる。

以上のことから、施設等の存在及び供用による景観への影響については、事業者の実行可能な範囲内で回避又は低減が図られているものと評価した。

2）国又は地方公共団体による環境の保全に係る基準又は目標との整合性に係る評価

（ア）環境の保全に係る基準又は目標

「第 3 次沖縄県環境基本計画」（令和 5 年 3 月、沖縄県）で「各種事業の実施における環境配慮指針」のうち「埋立及び干拓の事業」の項目において「護岸については、周辺景観との調和に配慮するとともに、親水性の高い水辺の形成に努める。」と示されており、また、「浦添市景観まちづくり計画」のうち、当該エリアの景観形成方針として「海への眺望及び緑の稜線に配慮するとともに、現況地形、自然緑地等を保全・活用した新たな都市景観の形成に取り組みます。」と示されている。これらの環境保全の目標と予測結果を比較することにより、環境の保全に関する施策との整合性が図られているかについて評価する。

（イ）環境の保全に係る基準又は目標との整合性

埋立地に創出される緑地等の確保や周辺地域の修景に努めるため、護岸の一部に自然石を用いることを前提に検討する等の環境保全措置を講じることで景観への影響を低減できると考えられることから「事業別環境配慮指針」や「浦添市景観まちづくり計画」との整合性は図られていると評価した。

以上のことから、環境の保全に係る基準又は目標との整合性が図られているものと評価した。